

福島市役所複合棟

福島県福島市

設計・監理／山下設計・田畑建築設計事務所 設計共同企業体
施工／佐藤・安藤・大丸特定建設工事共同企業体



複合棟南東側外観 複合棟前の市民広場は駐車場としても機能する



上／市役所全体の外観。各棟で共通する外装材を使用することで全体としての統一感を創出している 左下／中2階を介して1～2階が連続する市民交流機能 右下／議場



東日本大震災を乗り越えて

福島市の中心市街地を活性化する複合施設

福島市を縦断する国道4号沿いの計画地における、1952年竣工の旧庁舎の建替え計画である。2008年に東棟(庁舎棟)と西棟(主に議会機能)の2棟構成で設計を完了したが、東棟の竣工から3カ月後に東日本大震災が発生し、市内の復興事業を優先させるため、西棟の建設は中断となった。その後2018年

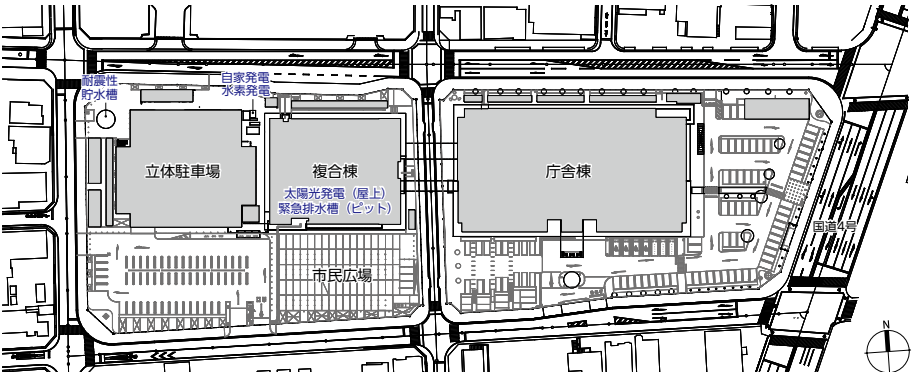
より西棟のあり方が再度議論され、中心市街地の活性化や公共施設再編の観点から、「議会機能」に加え「市民交流機能」「行政機能」「防災機能」を複合した「複合棟」として整備することになった。

― 市民センターの利用を促すため

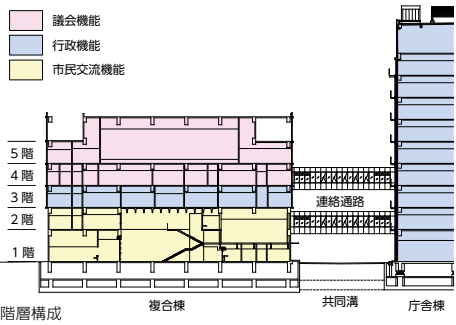
中2階を介して1～2階を連続

複合棟の階層構成は、1～3階が市民交流機能である市民センター（3階会議室は平日の日

中は行政機能としての利用)、4～5階が議会機能となっており、2階と4階で庁舎棟と連絡通路で接続している。2階連絡通路下は道路面から有効で5.5m確保する必要があったため、2階の床レベルを1FL+6,000mmとしている。このためエントランスホールの吹抜に面して、小ホールを配置した中2階を設置することで、市民を自然と上階に誘導し、2階以上の市民交流機能の利用を促す計画としている。



全体配置計画



階層構成

― 開かれた議会の象徴となる議場

議場は、議長席を中心に議員席と当局席が左右に対面するように配置している。壁面には福島県産材を使用し、床面は段差が無いユニバーサルデザインとしている。また、傍聴席については見やすさに配慮し、当局席と議員席の側面に議長席と対面する形で配置して66席(内、車いす用4席)分を設けている。



吹抜に面した2階の学習コーナー

― 安全・安心のよりどころとなる庁舎

本計画敷地は当該地区の「指定緊急避難場所・指定避難所」であるため、敷地内に耐震性貯水槽・水素発電設備・太陽光発電設備・自家発電設備・緊急排水槽を配置した。また、当初の計画では複合棟は耐震構造であったが、先に竣工した免震構造の行政棟が東日本大震災時の被害を最小限に抑えたため、複合棟も再設計時に免震構造を採用した。



吹抜に面した中2階の小ホール

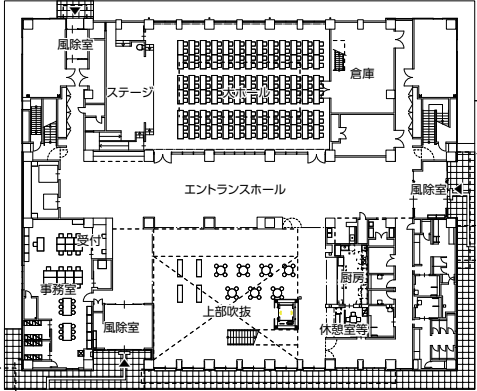
― 免震構造の2棟をつなぐ連絡通路

免震構造を採用した庁舎棟と複合棟をつなぐ連絡通路は、2棟間の歩道の歩行性を妨げないように、柱を配置しない計画とした。このため複合棟側をヒンジとして行政棟側に連絡通路を差し込み、この部分に可動域を集中させてエキスパンションジョイントを設けることで、免震構造同士の建物をつなぐ連絡通路を実現した。

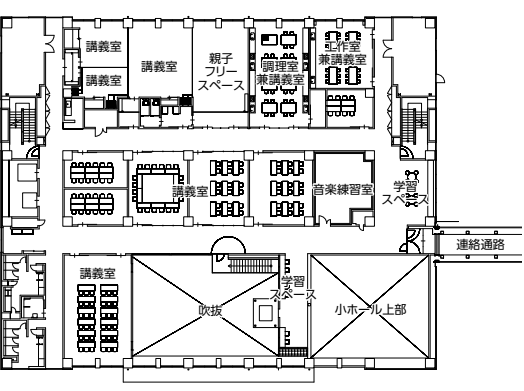
(谷口太郎／山下設計)



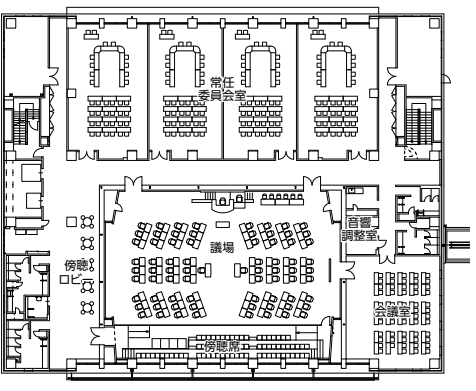
免振構造同士の建物をつなぐ連絡通路(写真提供：山下設計)



1階平面図 縮尺1/800



2階平面図



5階平面図

施工計画

本プロジェクトは複合棟と既存の庁舎棟が地下の共同溝と地上の連絡通路で接続する点が特徴的であり、この点が施工計画においても難しい部分であった。

共同溝に関しては、掘削部分に給水管・下水道管・ガス管が埋設されており、これらのライフライン

は老朽化による破損が懸念されたため、切り回し工事を行ってから地下の躯体工事を行った。

また、連絡通路に関しては、複合棟と既存の庁舎棟ともに免震構造の建物であり、免震構造同士を繋ぐ構造物であったため、建屋同士の離れやレベルを随時確認しながら施工にあたった。

可動域となる既存庁舎棟側は、既存躯体や外壁

等と大きなクリアランスが必要であるため、事前に入念な調査・計画を行った。

工事期間中には隣接する立体駐車場棟・附属棟・外構工事等の別途工事も並行して行われたため、随時各工事と行程等の調整を行いながら、各社一丸となって無事竣工を迎えた。

(野路弘次／佐藤工業)

(写真提供：山下設計)



下水道本管切り回し前



下水道本管切り回し後



共同溝_施工中



連絡通路_鉄骨建方

福島市役所複合棟 データ

所在地 福島県福島市五老内町3-1

主要用途 市民センター、事務所、議場

建築主 福島市

設計・監理 山下設計・田畑建築設計事務所 設計共同企業体

山下設計

担当／総括：谷口太郎 建築：小原勇太、蒲健太郎、

神谷将大 構造：奥山敦之、大塚将人 設備：大野裕司、渡部真央、飯塚雅人、伊藤 琢（元社員）

田畑建築設計事務所

担当／田畑建一、佐藤義則、原田信弘、菅野禎人

ランドスケープデザイン協力 ソラアソシエイツ

担当／藤田久数、青木優里

施工

建築 佐藤・安藤・大丸特定建設工事共同企業体

担当／野路弘次、阿部 航、高橋克典、菅野辰徳

電気 大槻・広栄特定建設工事共同企業体

担当／大波英和、佐藤利幸、佐藤正一

空調 文化・倉島特定建設工事共同企業体

担当／八島 満、飯島和英

衛生 第一温調工業 担当／板井 健



谷口 太郎……たにぐち たろう

1978年大阪府生まれ。2004年東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻修了、同年山下設計入社。現在、同社東北支社設計監理部副部長



野路 弘次……のじ ひろつぐ

1974年福島県生まれ。1996年日本大学工学部卒業、同年佐藤工業入社。現在、同社建築本部課長

設計期間 2020年6月～2022年3月

工事期間 2022年9月～2025年2月

【建築概要】

敷地面積 9,706.69㎡

建築面積 3,924.02㎡

延床面積 16,350.55㎡（複合棟9,147.90㎡）

建ぺい率 40.48％（許容80％）

容積率 131.97％（許容400％）

構造規模 RC造一部S造 地上7階

最高高さ 28.01m

軒高 27.11m

階高 4.16m

天井高さ 2.6m

主なスパン 6.4m×15m

道路幅員 11.00m

駐車台数 326台

地域地区 商業地域

【設備概要】

電気設備 受電方式／3φ3W6,600V1回線受電 変圧器容量／1,200kVA 予備電源／低圧非常用ディーゼル発電機 250kVA

空調設備 空調方式／外気処理空調機＋空冷HPPエアコン（1・2階）、外気処理空調機＋ガスHPPエアコン（3階）、単一ダクト変風量方式（4・5階） 熱源／空冷HPチラーユニット＋氷蓄熱（既存庁舎棟から供給）

衛生設備 給水／上水、雑用水二系統、高架水槽方式（既存市役所設置から供給） 給湯／電気式個別給湯方式一部ガス式個別給湯方式 排水／建物内汚水、雑排水分流方式、下水道へ放流

防災設備 消火／スプリンクラー設備、屋内消火栓設備、連結送水管設備 排煙／自然排煙

昇降機 乗用×2基、人荷共用×1基

【主な外部仕上げ】

屋根 アスファルト防水

外壁 押出成形セメント板（タイル貼付パネル、デザインパネル、フラットパネル）

建具 アルミサッシ

外構 インターロッキング、アスファルト

【主な内部仕上げ】

1階廊下 床／磁器質タイル 壁／スチールパネル 天井／化粧シート貼ルーバー

エントランスホール 床／磁器質タイル 壁／塗装 天井／ST床板

議場 床／ロールカーペット 壁／化粧シート 天井／岩綿吸音板

撮影／株式会社 スタジオナッप्ス 西坂 直樹

協力会社

型	枠	工	事	真	壁	工	務	店
鉄	筋	工	事	部	協	鉄	筋	工
資	機	材	揚	重	工	事	エスシーマシーナリ	東北機械センター
免	震	装	置	納	入	日	鉄	エンジニアリング
エキ	ス	パ	ン	シ	ョ	ン	ジ	ョ
イ	ン	ト	工	事	パ	ラ	キ	ャ
屋	根	工	事	元	旦	ビ	ュ	ー
P	C	工	事	オ	リ	エ	ン	タ
ス	テ	ン	レ	ス	製	建	具	・
フル	テ	ッ	ク	アル	ミ	製	建	具
Y	K	K	A	P	金	属	製	建
オ	ギ	ノ	鋼	製	建	具	・	シャ
三	和	シ	ャ	ッ	タ	ー	工	業
ハ	ン	デ	ィ	テ	ク	ノ	再	生
議	場	家	具	他	天	董	木	工